

SD Music Player③

文責：竹内 淳

最終回は、前回の続きの曲のテンポ設定に関する最後の Calc ボタンの使い方をはじめとして、ちょっとマニアックな機能についての説明になります。信じられない!! と思うような物もあるかもしれません。

リピートポイントの自動決定

実は最後の Calc ボタンはテンポを決める第3の方法ではなく、リピートポイントを自動決定するためのものだったのです。リピートポイントを自動的に設定するなんて信じられないかもしれませんが、必要な情報さえそろっていれば半自動ですが可能なのです。前回の BPM に関する式を再び変形すると

$$\text{区間の長さ (分)} = \text{区間内の四分音符数} \div \text{BPM}$$

となります。この式の意味するところは、正確なテンポと何小節でリピートさせるかを入力すれば、リピートするポイントを決定できるということです。MIDI で作られた曲のようにテンポが正確で一定なら（人間の演奏では最初から最後まで完全に同じテンポを維持するのは困難でしょうね）ほんの数秒で綺麗なリピート設定が可能です。次の手順でエンドポイントの値が計算されます。

1. スタートポイントを決める
2. Beats/Rep:の欄にビート数を入力
3. Original BPM:の欄にテンポを入力
4. 右下の Calc ボタンをクリック

5. Rep End:欄にエンドポイントが設定される
この機能はテンポが分かっている、しかも一定でないと思えませんが、MIDI で作られた曲ならそうであることが多いので、そんな曲をお持ちの方は、一度試して見られると良いと思います。面白いように綺麗につながるかもしれません。

すでにおわかりかと思いますが、Music List Edit ウィンドウの最下行、3つの Calc ボタンは、

区間の長さ

区間内の四分音符数

BPM

の関係 = で結ぶためのボタンです。従って、一度正しい値が設定されるとどれをクリックしても値は変化しません。

テンポの調整

以上でオリジナルテンポの取得ができましたので、次は実際にコールに使用する時のテンポをお好みに合わせて調整します。Music List Edit ウィンドウの中ほど右側に BPM: の欄、その下にテンポと音程を調整するための speed pitch tempo の3つのスライドバーがあります。BPM: 欄には最初 128 と出ていますが、これは正しい値ではありませんので注意し

てください。Original BPM を設定すると、それと同じ値がこの欄にも設定されます。speed あるいは temp のスライドバーで調整すると、この欄の値のみが変化します。スライドバーの機能は下記のとおりです。

speed ・・曲の速度と音程が同時に変化します

pitch ・・曲の速度は変わらず音程のみ変化します

tempo ・・曲の音程は変わらず速度のみ変化します

speed はレコードの回転を上下するのと同じ効果があり、音質が劣化することはありません。pitch と tempo は大きく変化させると音質が劣化するので、通常は speed を使って調整し、どうしても必要な場合のみ pitch と tempo を使ってください。

Music List Edit ウィンドウで調整した値は保存され、曲をロードした時に自動的にその値に設定されます。speed pitch tempo は操作パネルにもありますが、操作パネルで調整した値は保存されません。その都度、状況に合わせて変更したい時にはこちらを使用してください。

ダンスにとって曲のテンポは非常に重要です。遅すぎるとダラダラしたものになってしまいますし、速すぎると歩き難くなります。128±4 BPM が許容範囲ではないかと思えます。これは8小節を 30±1秒の範囲に調整するという事なので、感覚に頼るのは危険です。テンポのよいコールをしようとして曲を速くしすぎないように注意してください。遅いと感じる曲が測定してみると以外に速いことがあります。ダンスの速さは曲のテンポではなくコールのタイミングで決まります。たとえ 124BPM でも歩く速さとしては十分速い（行進曲が 120BPM くらいです）ので速いダンスは可能です。曲が速すぎるとダンサーの足が曲に追いつかなかったり、自分のコールが曲に追いつかなかったりして、逆にテンポの悪いダンスになってしまいます。

隠れ機能

役に立つかどうかは別として、面白い機能があるので紹介します。隠してあるわけではありませんが、あまり目立たないので隠れ機能と題しました。

・音量の自動調整

目覚まし時計アイコンの横に奇妙なアイコンがあるのにお気づきでしょうか。これは親指でマイクケーブルの音量調整つまみを回している絵（のつもり）です。この絵の通り、コーラーが声を発する時だけ音楽の音量を自動的に下げる機能です。信じられないかもしれませんが、こんなことも可能なのです。ヒルトンのアンプならば手動で行えますが、他のアンプを使う時や、つまみを回しすぎて親指が擦りむ

けて痛くなったり、手首の腱鞘炎になったりするコーラーさんのために作ってみました。

使用するには、アンプからの音を PC の音声入力に入れます。声だけを分離できればベストですが、音楽と声がミックスされていても音楽より大きな声を出しさえすれば機能します。アイコンをクリックすると Auto Volume Control というウインドウが現れます。音を出すと上部の Sense Level メーターが振れるので、声を発した時に振れる付近の少し下にスライダーの摘みを移動します。入力音のレベルが摘みの位置を超えると音楽の音量を下げる仕組みです。どの程度下げるか、どの程度待って元に戻すか、どの程度の速さで戻すかを下の欄で設定できます。設定を変更したら Apply ボタンをクリックします。Close でウインドウを閉じるか、ON/OFF で OFF にするとこの機能は働かなくなります。

この機能は音声入力と音声出力が同時に使える PC でないと使えません。入力レベルの調整は PC に付属のボリュームコントロールで行います。Input Mixer と Output Mixer ボタンはボリュームコントロールを開くための物ですが、Windows Vista と Windows7 では起動しないようなので、PC のメニューから起動して調整してください。

本来はコールを聞き取りやすくするための機能ですが、音量のリミッターとしても使えるかもしれません。音を大きくし過ぎてダンサーからうるさいと苦情を言われるコーラーさんも、この機能を使えば、アンプの音量をいくら大きくしても適切な音量に調整してくれるので安心です。

・クリップボードへの情報出力

GO ボタンには、曲名、日付などの情報をクリップボードへ出力する機能があります。出力する項目は、メニューバーの Setup→Option の Go Button タブで選択します。なぜこんな機能があるかというと、使った曲の日時、場所などを全部記録しておきたいという要望があったからです。コールが終わった後、メモ帳に情報をコピーするための機能です。信じられないかもしれませんが世の中には変わった人がいるものです。

また、曲リストの情報も Edit→Copy でクリップボードへテキスト形式で取り出すことができます。

・RepStart/RepEnd の非表示

Setup→Option には ListView タブがあります。この中のチェックボックスをチェックすると Auto Repeat が OFF の時、RepStart と RepEnd の時刻設定が表示されなくなります。登録している多くの曲の中から Singing 用の曲を探し易くするために、そうしたいという要望により導入しました。信じら

れないような使い方があるものですね。

まだまだ隠れ機能はありますが、きりがないのでこのへんにしたいと思います。後はご自分で探してみてください。

音楽の著作権

最後に著作権のことを書きたいと思います。音楽のデジタル化で簡単にコピーができるようになりましたが、同時に著作権者の利益侵害も簡単にできるようになってしまいました。他の人が使っている曲が気に入ってコピーしてもらうことはよくあると思います。しかし、継続して使用する場合には、後からでも良いのできちんと購入するようにしましょう。ダンス用でない一般の CD 曲をダンスに使用するのは、そのこと自体が利益侵害になる可能性もあります。一般の曲は法律上、個人としての視聴のみが許可されていて不特定多数に聞かせてはいけなからです。コピーが横行して目に余るようになると使用自体が禁止されることにもなりかねません。結局、自分の利益を損ねることになるので、そうなる前に自制しましょう。また、ダンス用に売っている曲の場合はダンスで使うなどは言わないでしようが、最低限のルールは守りたいものです。

このソフトの著作権

SD Music Player はフリーソフトとして無料で配布しています。フリーソフトといえども著作権はありますので、できるだけ著作権者の利益を守りましょう。ところで著作権者の利益って何でしょうか。必ずしも金銭とは限りません。著作権者が何を利益だと考えるかによるとと思います。本ソフトの場合は

「出来るだけ多くの人に使用してもらう」

ことだと思っています。(著作物の本来の目的は世の中に広めることであり、収益は目的を達成するための副次的に必要な物だと思っています。)

従って、使用者の方々には著作権者の利益を守るため、下記のことを励行して頂きたいと思います。

- ・便利だと感じたら他のコーラーに紹介する
 - ・スキルのある人は分からない人に教えてあげる
 - ・もっとスキルのある人は便利な機能を提案する
 - ・さらにスキルのある人は自分で機能向上を試みる
- こうして頂ければ、目的を達成するのに費用はかからないので、無料配布で構わないのです。

SD Music Player が普及した背景には、多くの方々の上記のような活動があったのだと思います。最後に、この場を借りてお礼を申し上げたいと思います。ありがとうございました。

おわり